明治卅八年參月拾四日 第參種郵便物認可

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
乾曆甲辰二月廿四日

定價　壹ヶ月　金參拾錢

廣告　五號活字十九字詰　壹行壹日　金拾三錢　三日以上　金七錢　五日以上　金五錢　特別同　金貳拾錢

發行兼編輯人　印刷人
韓國釜山港大廳町二十七番地
發行所　朝鮮日報社

言論

實業界と青年

日露の交戰、前途尚遼遠なりと雖も、露國は既に癒す可らざるの大創傷を受けたる以上、最後の勝利の我國に歸すべきことは、疑を容れざる處なり。然りと雖も武は只一時の要具にして、永く立國の基礎となす可からず。縱し吾人は武器の戰に於て最後の勝利を得たりとするも、是れ唯一時の效に勝ちたるのみ、更に國家常經の業の是れに伴ふて、改善進歩するにあらざれば、所謂平和の戰爭に於ける優者たるを得ざるなり、殊に露國は決して一敗二敗にして屈服するが如き國にあらず、縱令一時平和の局を結ぶとも、再び其武備を整へ其隙を窺ふ、而して我國の乘すべきものあらば、彼れが屈辱に報いんとするは、昭々火を睹るよりも明かなる事なり。實に戰後に於ける經營は、戰爭其者よりも一層の緊要に屬し、[illegible]は、一に繫りて是れに存するものたり。[illegible]の第一着歩は、國力の充實にあり。國力を充實するには產業を發達せしむるにあらず、產業を發達せしむる事は、是れ全く今後實業家の雙肩に荷ふべき重大の任務なり。實業家の任務の重大なるおとは、戰爭に於ける軍人の任務の重大なるに異ならず、實業家は此平和的戰爭の局に立ちて、砲火の間に戰ふよりも、寧ろ久しき年月間一層の辛勞と努力とを續けて、其實を果さゞる可からざるなり。我實業家は果して是れに堪ふべき準備と決心とを有するか、吾人は茲に遺憾の念なき能はざるなり。

惟ふに我國實業界の缺點は、一朝にして盡し難しと雖も、第一實業的智識を缺く事、第二實業道德の觀念に乏しき事、第三企業的耐忍力の薄弱なる事等は其重なるものなる、之れを要するに、新進有爲の智識ある人士を缺くにあり、最大缺點なるが如し。兎角我國民は實業を蔑視するの習慣去りやらず、新時代の實業界の要求に應ずるの適材ありと雖も、自から之れを避けて他に就くの傾向あるは、誠に國家のため悲むべきことなり。吾人は高等文官外交官、若しくは判檢事等諸種の官吏たらんおとを希望し、螢窓雪案の苦學しつゝある、幾多の青年學生を見る。又吾人は學者官吏の所謂與權を顧はれ、若しくは文學者たらんとて、高等の學術を研究しつゝある多數の青年學生を見る。然しながら、未だ立ちて實業界に雄飛し、一國產業の改良發達を計らんとて、大希望を以て、研學の功を積みつゝある青年學生を見ず。又實業家の業を志して克く其內助の功を收めんものとの抱負を以て勉學しつゝある青年學生を見ず。是れ斯くの如く天下の青年を擧げて志を一方に偏倚せしむるが故に、需給の原則は直に是に及ぼし、天下多數の青年をして、空しく其才を抱ひて、失意落魄の徒となりをはらしめ、獨り一身、一家を過つのみならず、社會をして官吏學者もしくは其等の職業の希望者と又其失望者との多きに堪へざらしめんとす、是れ徇に一國人物經濟の上より觀て憂ふべきの現象にあらずや。青年の思潮斯くの如くにして、如何して此興國の氣運を維持するを得んや。故に青年男女をして實業を重んじ、實業の人たらんとの念を養成せしむるは、當今の急務なりと云ふ可し。今や實業教育の制度計に進運に向ひつゝありと雖も、未だ以て此氣運に應ずるに足らざるなり。故に戰後實業教育の益々進歩發達せんことに努めざるべからず。又青年をして實業に興味を感ぜしむるは、單に學校教育のみによりて期すべからざるなり。吾人は我實業家の先進の士が自己の門戶を開放して、青年をして己等に親近せしむるの機會を多からしむるは、彼等をして實業に趣味を感ぜしむる捷徑なりと信ず。

今や我國は政治上英國と結び、經濟上に於て米國と親善なりと雖も、所謂平和の戰爭は、是等の國によりてすら戰挑まれつゝあるにあらずや。過般英國ピーオー會社總會席上に於ける社長スチラツド氏の言は此間の消息を洩らせしものにあらずや。曰く、『日本は英國及西洋諸國に取りて實業上尤も恐るべき勁敵の一なり』又曰く『[illegible]會社は實に强敵と太海との間に介立せるの感あり』と。是れ正しく我國に對する戰の宣告にあらずや。又過岡米國大北汽船會社が二萬二千噸の巨船ミネソタ號を我東洋に廻航せしめしは、是れ又戰勝の砲彈にあらずや。吾人は國際上英米二國と永く親善を保たんおとを希望して止まずと雖も、所謂平和の戰爭は時勢の免れ難き運命にして、文明の進歩も亦是れより發するものなれば、國民は是れに對する充分の決心と覺悟とを以て、此趨勢に向はざるべからず。茲に於てか吾人は吾實業界の先進の士が我國青年の指導に努め、又青年諸子が自ら進んで失望落膽の淵に臨まず、社會の一角に於ける、諸子を要求する處の聲に耳を傾けんことを希望して止まざるなり

雜報

●馬山領の工業

●馬山領事管內に於ける工業品には木綿、麻布、紙、食鹽、冠及び農具の六種あり

▲木綿　晋州產出の木綿は品質佳良なるを以て其名高く夙に晋木の稱あり該品は固城、泗川、咸安、丹城、昆陽、宜寧、草溪、漆原等附近諸郡の製產に係ると雖も其取引は專ら晋州市場に行はるゝか故に總して之を晋木と稱す其產出年額凡百萬反に達すと云ふ明治二十六年頃釜山在留本邦商にして此晋木に擬し日本晋木と稱して賣捌きたることありて頗る好評を博し輸入重要品中金巾と競爭するの位置に進み同管內にても近年までは相應の人氣を維持し來りたりしか本邦產の品質漸次粗惡に陷るの傾ありたる爲め韓人等は自國の方堅牢にして使用に堪へると稱し漸く本邦產を排斥するに至り近來韓綿木綿は實に輸入紡績を經として之を織るの風を成し來り生產の大部は主として元山地方に輸出する金巾の使用却て便なる爲め木綿の產額は稍々減少の傾きあり

▲麻布　三嘉、山淸、陜川は其特產地にして咸安、草溪、安義、丹城等赤相應產出あり年々平均約金拾萬圓を產し其精良なるものに至ては我上布に比して優劣なし而して其大部は晋州市場を經て各地に散布せられ又元山地方に輸出せらるゝもの多し

▲紙　產地は宜寧、咸陽、居昌、山淸を最とし安義、三嘉、陜川、晋州等之に次く製紙高は詳ならざるも總額は總計二百個に下らずと云ふ紙面は精美ならざるも質の强靭なること我木宇紙に優る

▲食鹽　製鹽地は昌原、鎭海、晋州、固城、泗川、昆陽にして釜鹽百四拾四製鹽高年々二万石以上に達すと云ふ本邦產に比すれは鹹味弱きも韓人は其使用に馴れ來た本邦製鹽の使用を歡致するに至らず

▲冠及農具　本品は何れも統營の特產物にして各道に愛用せられ產額亦た多し原料の大部は本邦より輸入す此他多少工業品として觀るべきは陶器、眞鍮器、白銅器、鐵製品等なり陶器は重に壺、鉢、食器具にして壺、鉢は本邦備前燒に類似し食器具は薩摩燒の粗劣なるものなり近來肥前、尾張等より輸入する食器便器の類美麗にして當國產に優れりとて漸次好評を得家計の裕なる向は本邦產を愛用するもの多し眞鍮器は食器類、煙草具、便器、金盥、火鉢、白銅器は火鉢、匙、煙管、寶面等を其重なる製作品とす鐵器は重に農具にして是又當國產を總造し居るも本邦製品の輸入多く相應聲價を有せり

▲鑛業　管內鑛坑は其數少なからざるも何れも小坑にして現に採鑛中のものは極めて少なし古來採鑛所の名あるもの左の如し

砂金、昌原郡甘泉、龍潭、漆原郡鐵峴、柳洞、遠田、咸安郡竹山（又新塘）、昌川郡游郎寺、晋州郡馬木
銅、鎭昌原郡人龍山、丸龍山、
銀鉛鑛、昌原郡玖也洞、北柱、新川

右の內甘泉、龍岩、遠田、柳淸、新堀等の砂金坑は何れも舊坑なれども韓人の採堀法極めて幼稚にして各般の設備固より不充分なる爲め其採收の辨頗る粗雜を極め目下は何れも僅か近傍の農民等農耕の餘暇に砂金を搜探する者あるのみ遺憾の砂金鑛は數年前多量を產出したることありしか是亦今日は殆ど中止の有樣にて馬木鑛三に於て空しく其採鑛權を有するに過ぎず現今管內砂金產出額は一ヶ年二萬貫目あるのみ

九龍山銅坑は馬木健三なる者の經營に係り現に採堀中にして一時は其採堀額年額二拾萬斤に達したることあり同人は昨年末大坂に資本主を得て一層事業の擴張を計り一面必要の設備を爲すと同時に一面採鑛に着手したるも未だ舊期の良成績を擧ぐるに至らず但し丸龍山鑛は最も佳良にして凡そ三割の銅分を含有すと雖とも其鑛脈の不規則にして鑛脈豐富ならざるは同鑛山の一大缺點なりとす目下同人の使用する坑夫本邦人五名韓人四拾餘名あり人龍山銅坑は久しく以前より採堀を中止し居り金銀銅坑は往昔韓人の採堀せる舊坑も更に之を採堀するの價値あるや否に就き馬木氏に於て研究中なり

●『一笑一笑』　▲日露、其戰局を收むれば黄浪、天を拍て太平洋より來らんと、是れ米國某新聞の論する所、黄浪乎、紫瀾乎、敢て說を要せざるも、碧眼兒の今更黄色を怯怖する、寧ろ滑稽の觀なきにあらず▲人種の系統を穿鑿して、强て黄色に非ざる所以を辨ずる者、世間之れあり何ぞ[illegible]の狹隘なるや、苟くも仁義を以て地興に臨む、黄色可なり、黑色可なり、白色亦大いに可なり、區々の言議を排して、白人の前に辨疏する實以て自家の短見を自白する者ならずや▲[illegible]等にして既に軍隊に入る、須らく勇敢にして忠烈なる日本軍隊に傚ふべし、是れカイゼルの軍隊に留る所なり黄禍を首唱して、却て黄人に擬せしめんとす、カイゼルの描獸や、眞個喰飯に堪へざるり▲我は鐵面八郎にて可なり、何ぞ官爵を望まんやと、武朗の一言千古の金言にあらずや、[illegible]を以て軍職に臨む者、今果して幾人乎ある、嗚呼其れ幾人乎ある金色、燦爛たる戰捷軍は、曾て八郎武朗の罵殺する所、思はざる可けんや▲一[illegible]を具ふ者は、須らく今後の大勢を洞見すべし、軍人乎、非軍人乎、必らずしも說くを要せず、其れ之を洞見せずして、戰後を論ず、正鵠を過たざるもの殆んど稀なり

小品文

●熱耳冷眼　劍風生

◎人生を悲觀する人の多くして人生を樂觀する人の少なく、人生を樂觀する人の多くして人生を悲觀する人の少なく、人生を樂觀する人の多くして人生を冷觀する人の少なく、獨り人生を冷觀する人の少なくして人生を誤觀する人の多きに堪ゆるを悲しむ。

◎吾れも近頃は當世流と俗化したるぞ中々に罪おそろし、人が右といへば直ちに右す左といへば又左す、宛然之れ風に舞ふ羽虫片々たる輕薄才子也、意志の弱きが爲めと人嗤れども是れも偉大なる目的を達する迄の方便なりと想へば左迄苦しからず、

◎權謀の術を弄するもれは弱者也、水中章魚の小動物を見ても然らずや、斯かる說を吐かるゝ人は小蛇の爲めに計らるゝ大象の類也、巧みに而して大膽に之れを弄するものは寧ろ精神的武器を利用するもの也、

文苑

●春日有作　孤岳
二月春風拂樹過。花能嬌笑鳥能歌。絕無俗士來敲戶。遲日園林樂事多。

●偶成　同人
我心無喜又無憂。落落甌窶輕擬秋。人若欲知我心事。一輪明月水中浮。

●送友人　同人
書劍飄然向本州。落花啼鳥使人愁。驪歌唱罷故人去。只見洛江天際流。

●山燒（一ヶ會詠草）

燒山や岩のみなみにすみれ咲く　東天
稲ひとり燒野に愛兒たづねけり　芳哉園
[illegible]しかくさ山に火の燃ゆる　默安
兵火万里なん溝の野の野燒かな　鬼門
一しきり野火を雉子[illegible]の枝ち　弓南
名も知らぬ小島ごと立つ燒野かな　鼠天
野を燒や昔し懸所のありし所　柚樹
下草のやき沸はれて草つたかし　燭紅
野をやくやすみれの花の彼是に　抽樹
山やまやふもとの村の灯のあかき　獸安
野をやかれむさるをうずの路迷　爛紅
（人）踐蹈て山やく方をむしへけり　斗南
（地）三笠やまて佐保川の水溫けす　芳哉園
（天）川や甲斐と越後の國さかひ　鬼門

講談

仇討 武勇の譽

（廿一回）　本社　井竹林講演　愚迷速記

上『委細承知をいたしました手前も大ひにふしんを抱く廉がございます然し此の使者は容易なものでは勤まりませぬ伊達藤五郎成實然るべうござんしますコ、ア伊達藤五郎成實といふ人が使者となつて津輕の行方家へ乘込んで參りました然し五里や三里の處ではございません百里以上隔たつてゐる今とは違ひまして急の間には合ませぬ仙石長左衛門は直太郎を拷問にかけやうといふ處へ伊達上野之介よりの使者で田邊作兵衛が參る早速對面をいたしますと大殿よりの仰せでござる岩見直太郎鋼王綱の兩人は川添の役所へおうつしになる早々出牢をさせるやうにとの事に依て兩人を調べいたすでござらう是非に及ばず兩人を出牢させる之をつれて川添の役所へ參りました之は當家中のもの、何か罪を犯しゝ時にしらべ申すます所謂揚り屋でございます始めて直太郎つき女が晝夜に燈火を得たる思ひで悦び何にたとへても出來ません牢とは違ひたゝみもございます之を見屆けて仙石長左衛門は或夜高野彌兵衛の旅館へ參りまして

長『偖て段々の御願みでござるから實は直太郎を引出し拷問にかけやうと心得たる處直役よりの沙汰にて川添の役所へうつされました最早手前どもの勝手にはなりません其に角當月拾壹日には伊達藤五郎が立會りまして入る時には彼は御自分の手に渡りませうかう夫迄の間だ何うかお待受を願ひたい心中に高野は失望をいたしました仕方がないよきなに返答をして仙石長左衛門を返して今皆な之までに至つたがモー萬見たゲーして居れば我々は召捕られてしまう

△『先生骨を折つた甲斐がございませんな』

オ『イヤ何に[illegible]等を牢內へブチ込だからモー之でたくさんだ恨みは晴てゐるせめていつなら直太郎をなきものにして玉絹を引さらをうと思つたが何うも仕方がない拾壹日に使者が立歸れば大方大總寂日もはく逃ふと、やはり[illegible]計りだぞし合せなして[illegible]といふものゝ召使ひをよんで

オ『イヤ大きに[illegible]て俺たち今夜は壹杯呑で[illegible]二本松へ乘込むつもりだおまへたち二人は俺の前でふむまくあるないから下へいつて酒肴存めま

放されて一人の者は下で旅籠屋の[illegible]我々は二階で存むから[illegible]ございでございます君らめしもり女にからひなからはめをはづして呑で騒ぎする座敷には武兵や馬具が其處にかざつてある二階では壹盃み下[illegible]の、容子をうかゞつてゐるサア逃やうといふので二階の窓から八人が忍びやかに下へ下りましたが下ではわサ〳〵さわいでゐるので二人の召遣ひはチツトモ氣がつかない表へ出た小浪才藏の高野彌兵衛が『偖て谷々は壹と足先へ、本松へ參玉ひ大勢打ろろつて參ると召捕れるかも知れんなれて參らう丈さもに心得て安達櫓內が先にたつて七人は二本松をさして急ぎました胸に意物ある高野彌兵衛は之から壹岡に別れて道をかへて逃だした伊達藤五郎は行方家へ參つて聞たづねると雖方も家いおとでございますソコデ藤五郎が家來の中で壹番足の早いものをえらんで委細のとを書面に認めて伊達上野之介のもとまでつかはしましたされば藤五郎の歸るより五日も前に此の書面を以て彼等の爲るのが分つて居る夫れといふので旅館へ押よせると拾度高野彌兵衛が立つた跡で見ると二人の下郎は酒を呑んで居ります高野はどこと二階に居るといふから上つて見たが居ない偖は逃たといふので是から下郎をきびしくしめると何でも旦那は二本松へ往くとおつしやいました

朝鮮日報

言論　我邦人の永住權と土地の所有權

韓國は條約上未だ各國人に指定の場所以外に於ては公然の永住權を與へず、又各居留地一里以外の地に於ては土地所有權を許さず、而も各國人殊に我邦人漸く增加の勢を以て入し來る今の時に於て斯の如き條約の存[illegible]、各國人殊に我邦人年々巨萬の富を此地に投下する今の時に於て、豈[illegible]の如き條約の行はるべき理あらむや、故は今や各國人は韓國到處に永住的居を構へて[illegible]天下一[illegible]朝鮮は[illegible]土地所有[illegible]條約[illegible]

[illegible]しで無視す再入は殆ど其解せざる所と知らず斯の如きは決して勃興國の爲すべき所にあらず。斯の如きはましして我民力を朝鮮に屬ばし、我民族を死士に嘯發せしむる策にあらず、今日は最早姑息手段單純主義保護化し主義の時代にあらず、万事を々と行ひ斷々と爲すべき時なり我國人は到低現居留地內に跼蹐し能はずして、韓人殊に鑛山に新日本町を開き、鑛業に巨額の金を放資して八道の運料を收穫せんとしつゝある今日に於ては本問題は緊急中の緊急案なり、當局者たる者一考すべきなり、有志者たる者一擧手の勞を取らざる可らず　（旭讃）

雜報

●我第參期作戰

奉天附近の大會戰に於て一敗地に塗れ殆んど再び起つ能はざるまでに大打擊を蒙りたる敵軍は今後如何に對する如何なる方法を以てするか敵電によれば露國は更に四個師の大軍を極東に派遣すべしと豎言せるも此事の到底不可能なる限術も後國の軍狀に精通せる程の人士は齊しく首肯する所なり假るもまでには前進事らずされば今日の位に獲つて我軍と距ひ之に據りて本國同時に我に向つての外攻勢を取つて寄らぬことなり、陷落と遼陽の大捷し沙河および今回戰となさんか露參機を外さずして遂あと必ずしも軍路して之が計畫につる限り立あらざる大體の作戰計畫はいど眞に第參期作大勝と共に逸早く像ず難からざるども推知するに足るる時如何なる邊に遂行せらるるならり

●城津居留地復舊

昨年四月十六日露兵の侵入と共に城津の我居留民は其地を引上げて[illegible]四分五裂し[illegible]の報告を[illegible]滿一ケ年[illegible]とはいひながら漸次羽翼を延ばして北清に咸興に近くは元山居留[illegible]に侵入して人に對しては所々に掠奪をなしたるは勿論我をも苦しめんとしたること幾回なるを知らず之れがためには鬼哭啾々利原神の如き九死沈韓人の恐怖を聞くだに無念骨髓に徹して豆滿江遠く驅逐事其數上げて數ふべからず然るに我皇威の優渥と忠勇武烈なる陸海軍人とにより戰局は連戰連勝天既に我掌握に歸し北韓亦露兵の跡を絶たすらんとして城津地方は益々平穩に復したるを以て其筋にては領事館の設置を復舊し同時に居留民移住を許したれば近頃移住を圖らんとするもの續々既に五十有餘名の多きに達せり韓人は恰も一年振にて戰亂國の我日本人の顏を見て喜ぶなかく又該地の商況は漸次日を追ふて盛大に趣くは敢へて疑なかるべし因みに領事分館主任には川上立一郎氏副領事に昇進して赴任すべく又警察署警部には竹內喜一郎氏其他領事館書記生齋藤彥三郎氏巡査數名等も皆引揚げ以前該地に駐在し居たる者を以て赴任せしむる由

●京釜鐵道沿道の本邦人

當領事館管内に於ける京釜鐵道沿線在留の日本人左の如し

地名	戸數	男	女
龜浦	一二	二三	一五
勿禁	三	六	三
院洞	一	二	|
三浪津	五二	一六七	六一
無月山	二	三	二
印谷	一	三	一
龜倉	二	五	三
密陽停車場	二九	五四	三八
密陽城內	一二	二〇	一七
龍城	五	二	六
九谷	一	三	一
防川	一	二	|
檢川	四	八	四
新基洞	ー	三	|
清邊	八	一六	一〇
馬砂	二五	八〇	三五
慶山	八	三九	一二
大邱	二七九	六四三	三四七
倭館	一	二	一
治木	二二	八五	四〇
若浦	二	二二	六
新田	一	二	|
石洞	二五	一二四	四八
新桑	三	一六	一二
扶泉	七六	三三〇	七〇
金店	一四	三九	一九
芦[illegible]	四	一	六
秋風嶺	三二	一三七	三六
書洞	一	三	|
黄勒洞	一	三	|
獨洞	一	三	|
金袋	一	二	|
山川	一	一	一
計	六三二	一、[illegible]	七九〇

右の內前月より十八人以上增加せるは扶桑、金泉、芦店の三ケ所にして二拾人以上增加せるは慶山、秋風嶺、治[illegible]、石[illegible]、鐵中石田は百十五、大邱は百九十三人を增し全體に於て四百七十三人を增せり而して平、岩下、馬山、洞[illegible]等は新月迄在留せしも今は總て引揚げたりと

●京城の水道工事　京城日本居留地水道工事費の豫算は拾壹萬圓による由なるが外に尙下金を要するは飲料水の供給にて石橋博士の案に依れば南山の麓に三個の貯水池を設け則ち居留地の重なるところに十個の給水所を造り貯水池と給水所との間にはパイプを以て各自連絡を保たしむる裝置なるが此豫算額は凡そ拾萬圓なりといふ

△水道の竣工　米國人早川濟館氏の設計に成れる韓國宮城內に於ける水道工事は既に竣工して給水を始めたり

●痘苗製造所　韓國內に於ける痘苗普及の目的を以て今回仁川松里林に臨時痘苗製造所を新設し田中技手主任となりて目下専ら痘苗製造中なりと

○荒蕪地買收の不可　當韓國に於ける荒蕪地買收は韓國開拓の上において最も成成に近きしの如きもの主張をなすものあれど該荒蕪地を開拓するの資金ならば比較的廉價なる良田を買收して利益を得るの得策なるに如かずと主張するもの一致するものゝ如し

●英語附加　仁川小學校高等科にては三十八年度より商業科の外英語科を附加する筈なりと

●草梁の一進會員　草梁に住める韓人にして一進會員へ加盟したるもの今日迄約十五六名ある由なるが其牛耳を執れるは朴緻吉氏（日本通）なりと

◎滿韓市政開拓社の着手　當港有力實業家等が滿韓に於ける市政開拓の目的を以て該會社を設立する計畫ある事は既報の如くなるが愈々右會社設立に着手すべしといふ

●補習科新設　仁川には小學校以外中等教育の設備なきため小學校高等科を卒業し若くは之と同等以上の學力を有する者にして中等教育を授くるの資力なき子弟又は事故のため同地を離るべからざる者は不便少なからざるを以て本年度より同公立小學校に補習科學級編成を設くる筈なりと云ふ

●幼稚園保育證授與式　既記の如く昨日午前九時より東本願寺內に於て執行されたるが式の順序は君が代の唱歌、園長井上香憲氏の勅語奉讀、齊藤戲兵士と看護婦、はばり、證書授與式、園長の報告、石原民長の演舌、見童わかれの唱歌ありて閉會し來賓には設けの席にて茶菓の饗應ありたるが當日の來會者有賀領事、石原民長、木村第一銀行支配人等なりしが彼の天眞爛漫なる遊戲の所作及無邪氣なる口より溢れ出する唱歌等總て來賓一同を幼時に立ち歸らしめたる如き觀を起さしめぬ見童中最長兒四年八ヶ月にて最年少者三年八ヶ月なる此幼なき兒童が歌を唱ひ遊戲を愛する等實に園長保姆者の[illegible]と察せられたり本年度保育の見童數は左の如し

入園兒六十四名退園兒貳拾貳名三拾六年度現見數貳拾名にて殘男兒壹拾壹名女壹拾貳名なるが園長保姆者の熱心の然らしむる處か成績は內地等より遙に好結果の由なり

●貿易の不振　例の如し、今春以來韓國の穀物出でざる爲め非常の不振を來たし居るが昨今に至りても猶は右の不振なる範圍を脱せざる模樣なり

●一大ラムネ製造會社　今回當港仁川京城の三ケ所に一大ラムネ製造會社を設立する者ありて目下頻りに奔走中なりといふ

●商品陳列館の庭內　開館も愈々切迫し居るにより二三日前より庭內に花樹石水等の配列を取急ぎつゝあり

●馬山通信　公賣地　公賣地平地貳拾九區は既に濟となり一區城少きものは五百米突多きものは千米突にして山麓の傾斜地は多分此日競賣に附するに至るべし而して競賣の時日は未だ確定せざるなりといふ▲大和會　婦人の赤誠を披瀝して軍國に盡さんとの目的を持ち不取敢納帶用木綿を寄て其の筋へ獻納せんとの志望にて大和會なるもの起れり會長は領事三浦氏の令夫人にして會計幹事には小田さつ氏なり赴れ實に時節柄好個の會と謂ふ可し▲謝狀　馬山開港の當時より白川丸は大阪よりの直通船にて在留民に便宜を與ふる事尠なからざりしが此の程留民の有志者之を徳とし白川丸船長瀬戶山傳太郎氏に銀杯一個を送りしに之れが傳達方を大坂商船會社に依賴せし處同會社長中橋德五郎氏は理事宮原氏に向け叮嚀なる謝狀を送れり▲招宴　剛る廿五日午後六時齊藤士淺海氏領事館書記生淺山氏は居留官民を旅館思君寺に招て着任披露の宴を張れり▲布教師轉居　永田寺布教師筑波氏は今回釜山に轉居せり▲鷺原の昨今　鐵道工事着手以來當時は數百人の人夫數軒の商家もありて賑ひしが其後の工事の落成式と共に殆んど同胞數人を數ふる寂寞を感ずるに至りしが今や改修工事の爲め木石工百人以上の入込ありて再び新日本村を形ち遊ぶるに至れり此の際慈善商會の如き率先賣込に着手せしとの噂さ▲馬山の名物　フラフ柱の多き事郵便函の多き事慈善者亦は憶兵を冠したる商家のある事月日鑛出牛肉に野菜は謂はずもがな

●仁川だより　（廿四日發）　▲二七八年度に於ける仁川居留地の豫算は歲出六萬、百余十余圓にして昨年に比し約二倍の膨張をし歲入も從つて增加し居留民の負擔は非常の增加を來し申候、然れども居留地の發展に伴ひ居留地經費の膨脹は已むを得ざる所にして居留民は何人と雖も其負擔を拒むものなからんと存候▲佐賀、鹿島の舊藩主鍋島直彬氏は商業經營の目的を抱て來韓し今明日中當地に來られ[illegible]一家子亦た其令室[illegible]し親ら[illegible]に從事せらるゝ由にて[illegible]人共より[illegible]笑せられたる事實の人達が當然さして滿韓經營に着手せらるゝの大決心に就て感激に堪へざる次第に候直しに之が爲に我が國民をして大いに注しむるを得んかと存候▲一千圓藝妓貞奴なるもの當地朝日樓に現はれ申候、吾人は未だ彼の姿に接するの光榮を有せずと雖も想ふに彼が艷麗なる花顏幾多鼻下長連を惱殺せしむべしと存候勿々

●元山短信　赤十字社入社姓名　日本赤十字社元山委員部へ入社申込姓名は二月二十三日以後一時金　村フタ　三月三日以後小池鐵一　鳥居要山崎フジ子渡邊シカ西邦有島イト　藤本イク田中タニ　山口傳二郎記錄ナミの諸氏なりと云ふ▲中央人臨時募集　當港の貨物銀錢中央者に缺員を生じたるを以て志望のものは日本人商業會議所に申込まれうる來る二十七日までに願書を差出せば試驗を經て採用せらるゝとのことなり

●新聞記者大懇親會　當港三新聞記者大懇親會を開き種々の問題を協議すると共に新聞記者俱樂部を設置する件等に就て協議すへしと云ふ

●婦人會の募金企畫　當港日本婦人會にいては嘗て諸種の事業を計畫中なるが當春季よりは實水町に看護傳習所を開設の筈にて全會員は目下之が資金寄附募集中なるが同情者も多く目下寄附金總額貳千圓餘に達したりとの事なり

●湯屋組合と協議　追々渡韓者の數を增すと共に湯屋の如き非常に混雜し時々衣類其他の所持品を紛失する恐れあるを以て當港同業者一同協議の上取締上其他の件に關し々協議すべしといふ

◎赤組と販賣部　京釜鐵道旅客諸要品を賣捌く事に就て幸町赤組より同鐵道會社營業部に願出中なりしが今回許可を得たるにより追て着手ニ至るべしと

●寫眞業組合と價格の一定　當港土井平井日朝ノ各寫眞館においては過日組合會議を開き價格を一定し且つ毫も割引をせざるなど及び寄附申込者あるも右に對しては一致拒絶する事等を協議したりといふ

●大邱實業新報　大邱實業新報の第壹號は去る貳拾六日發行したり、紙幅小なりと雖も小ぢんまりとして記事も能く精撰あり同紙は韓人社會に多くの讀者を得へんとする方針にや其の記事の多くは朝鮮諺文を用ゐたり

●大官の更迭　中樞院議長朴定陽氏は廣文學士に、廣文學士李容泰氏は贊政に、彰勳院議定官沈相薰氏は中樞院議長に夫れ々任せられたり

●加藤局長の歸着期　京城地方へ觀察の爲め[illegible]の加藤當郵便局長は今明日中に歸釜さるべしと

●尹守摯の來釜　東萊監理署主事尹相殿氏は租稅徵收の爲め昨日來釜し目下滯釜中なり

△館山警視の來韓　元長崎縣警部長たりし館山警視は京城公使館付を命ぜられ昨日手取川丸にて來釜せり

●藤川警部の轉任　當港日本警察署警部藤川交吉氏は北京公使館附を命せられ明三十日赴任の途に就かるゝ由なるが鹿兒島縣出身者一同は待合亭にて離別の宴を昨夜開きたるが署員一同よりは美麗なる大毛布を記念として送られたり

◎中村の開業　新に來韓せられたる中村醫士は近日中當港に開業さるべしと

◎二宮五男氏　當地實業家二宮五男氏は目下京城に滯在中なるが近日中歸釜せらるべしといふ

◎中山希賢氏　當港北濱の同氏は目下京城に滯在中なる由

●教員辭令　戶倉英太郎[illegible]太郎の兩氏は當公立小學校訓導に昨日任命せらる

●神社を利用する惡漢　續々當港にて近來伊勢大神宮禮札を利用する惡漢續出す右に付其筋にては嚴重に右犯人を搜査中なるが中には一二有力なる實業家を歷訪して不正なる金錢を强請するものありといふ一般注意が肝心なり

◎俳會の例會　我社中の俳句同好者の組織せるささなみ會は今二十九日夜我社の寄宿所において其例會を開き運座を催す筈なり因みに同會は當港俳句界一方の牛耳たる一ケ會に對して大に氣勢をはる決心なりと

●確實商店案內（二）

▲齊藤支店　當港幸町壹丁目なる同店は本店は大阪に在りて日用の和洋諸雜貨を始め煙草茶等の卸小賣をなし又蜂印香鼠葡萄酒の韓國一手輸入販賣を爲せり

▲高瀨支店　は本町二丁目に在り當港屈指の大貿易商店にして福永氏總支配人たり各種の砂糖メリケン粉金巾類石油其他重要物產の貿易に從事し傍ら日宗火災保險及帝國生命保險會社の韓國代理店たり

▲荻野商店　大商店は本町一丁目にありて各種の清酒類和洋酒類缶詰石油北海[illegible]セメント及[illegible]等を主要とし殊に札幌ビールの韓國一手總入販賣をなし傍ら二三保險會社の代理店たり

▲廣田酒店　日本に於ける醬油上醬油の元祖たる山サ印醬油の韓國一手販賣を爲しつゝある同店は今回西町二丁目に移轉し醬類の四季釀造販賣をなし傍ら洋酒類を始め日用諸雜貨の販賣をもなし將來實業界に活動すべき一商店なり

제58호 1905. 3. 29.

朝鮮日報

小說 仮寝（下） 天奴

心配に僕が強いて聞かうとするので彼女は首うなだれて言ひ苦しげに鼻水すゝり上げて悲しげにやう〳〵きれ〳〵語り出した「アノ妾が釜山に來たのも段々と譯がある事で貴樣が圖をお出になつてからと云ふものは妾は何處に居らるゝかと貴樣のお友達の竹村さんや横尾さんや其の外のお方にも聞いて見たが朝鮮とか大邱とか云はれて一向確かとした事も聞かれずツイ一八昨日小さき胸痛めて居ました」と瞬時途切れて又彼女は何悲しげに語をついで「丁度本月の初めにアノ貴樣も御存知でせう永く此方へ來て居た熊さんとあれがねェ歸つて來て話に熊さんは朝鮮に行つて居るとの話、それを聞いて妾は嬉しうて〳〵堪らず、遂に熊さんに頼んで連て行つて呉れないかと云ふとねうれは御安い御用あなたが行く氣ならすぐでも連れて行つて上げますと不思議にもアノ男が快く請合つて呉れたので妾はすぐと學校のお友達にお別れもせず悪い事とは知りながら恐ろしくも其晩とツうらと阿父さんのお金を二十圓盗んで出て一所に來て見ると……ねェ熊と云ふ奴は悪い奴ですよ、妾を親切おかしに欺まかして貴樣が此所に居るとかそこに居るとか云ふて勝所方々を連れあるいた末その金日使ふて了いとう〳〵此の嶋の魔味屋に他の悪い奴と手組んで妾を命の爲めにあんナ見すぼらしい姿にしたのです、さテヤ阿母さんやお友達が見られたら……口惜しさと悲しさとに堪ゑ兼ねて訴ふるか如く救助を仰ぐが如くに言葉半ばにキャッと其所に泣き伏した。

「ねェみいちやん、それからどうしたの、あーみいちやん、そんなに泣かなくても…」僕も同情の感に打たれて聲涙はし呼べど料べど答ふる聲は泣き島の不運にガチャンと音したに驚けば今其所に泣き伏したと思ふたみいちやんの姿は何時しか何處へやら消え失せて机上のランプホヤの落ちた爲め吹く風に火は消えて室内暗黒姿を破る潮の音いと淋しくボツリ〳〵。何だ阿呆らし是れ南柯の一夢か、併し夢にしても不思議だ、僕はあらぬ感慨に打たれて胸間交々湧出する疑雲疑とし晴れやらぬに火を點けやうともせず机前に拱手悄然端座瞑想すれば今一頻り降つてきた雨は沛然襲ずやう。階下ではまだ宵らしい何日も變らぬ近達圏んで此所に戰爭話しの花さいて喋々喃々囀しり河の雄辯を揮つて戰況評るは例の軍需博士の曲水君ならむ、暫しも戸外から「女便、此家は「森繁」と云ふが居ますか」「ハイ居ります」とは先の夢の主、下婢が書面受取りながらの返事らしい（完）

雜報

●賊の巨魁捕へらる　新川に於て警部境益太郎氏をして負傷せしめたる賊の巨魁新元吉並に同類數人は朝鮮巡捕部長韓用借並に我警察巡査の盡力に依り成安部の由谷に於て捕へられ一昨、〓察に引致し取調べの上朝鮮警務署に送られたり

●煙草屋の若旦那 ▽…玉糸の肱鐵砲…▲

東風春水一時に來り櫻桃香李一時に咲くめ境するは釜山港劇場の昨今なり、楽座のひす矢義太夫はまだ見ぬ花の月旦定めもなり難ければ松井座の一座に就て言はむ御香は春の牡丹にして小菊は桃の妖艶なるべし、小糸は過ぎ、名殘りの姥櫻さらば玉糸は何に比すべき鷄香玉の如きは言はずもがな起て舞へば蝴蝶として翻びるが如く賞や歌一座の白眉たりされば幾千の觀客は勝へる如く魅せるが如きヤンヤ〳〵の其中に是は亦一入ュ御簾に示し語る初日の其時よりツット身に泌む悶風に歸臺の上が氣に懸り雨の日、風の夜、夜毎々々に通ひ詰めても万人の眺どしては飽足ずヤ、よ夫と思ふが犬を振さ口說き身の御なさを知らせなば、名は玉糸でもヨをだましはせまじとれもひ詰たは北通り時計屋の近所煙草店の若旦那今樣當八樣と申せばハヽーあれかと御存じの方もあるべし、さる程に先きの夜より風々思ひの丈の玉章を海山あめて送れども梨の礫で返事なきこそ合點行かずと此度自ら或る茶屋より玉糸を招けば暑に懸七てイツ〳〵と來るは來ても何氣なき風に柳のひよう腰言ひ解そよしもなかりければ其後再三呼び招き玉糸ならねば夜も日も明けずい〳〵口說き、泣き口說、樣々ニ手を盡せど玉糸はんと思ふてか此事計りは肌身ゆるさず品よく謝絶れば嫌はるゝ程なほ戀しくつけつ廻しのうるさゝニ耐へきれず當兒のためかたやしは幾ニ考へありてか若旦那よりおくられし繼文其儘封じ込めて旦那の妻君ニ送りければ妻君は世ニありがたき心を賞て大枚五圓の金を祝儀として送りしとナんさるニては戀ニは涙脆きものを玉糸の肱鐵砲あろ何か曰くあるらしけれ

▽浮草の世は面白き花の咲く△ 奴、

●西町の進ミ盟　原籍長崎縣下縣郡嚴原大手搦町九十六番地當時當港西町三丁目五十九番地手塚コウ（二十）福岡縣嘉穂郡若松町百三十二番地當時辨天町富島組雇人佐藤長次郎（二十）佐賀縣佐賀郡北川副村同上雇人小川要三郎（二十）香川縣木田郡庄江村同上雇人武武吉（三十）大分縣速見郡立石町四百四十番地同上雇人綾部洋雄（二十）の五名は一昨夜十一時頃前記手塚コウ方において丁よ半よしの最中に巡査ニ踏み込まれたるより要三郎爲吉の兩人は泡を食つて裏口より飛び出したるも何ぞ逃れ得べき遂に念珠繋ぎとなつてキり〳〵歩メ

●何だばか〳〵しい　昨日午後一時頃草梁に血塗れ騒ぎのある由急報ありたるより當署よりは早速巡査を出張せしめたる處何んだばか〳〵しい一寸したとから鼻血を打出した計りのとだ

●小娘の賣春　當港西町五丁目松島榮作妻の妹山本トメ（十七）は未だ肩街揚げも取れない餅肌に十圓にも賣りに出掛け居りたるが一昨夜も亦出掛けて水夫某に擬勝御輪途中巡査公ニヒッツカマエラて本署へ拘引の上嚴重取調べ追ひ返されたり

▽土茶瓶は口より先に尻がわれ　狂、

●泥醉支那警官に突當る　長野縣生れ當港西町二丁目七十三番地士族松本熊吉（三十）は一昨夜九時頃草梁なる支那居留地酒店酒井平太郎方にて一杯キコンメン又一時頃勉強後で醉醺然たる上何がおキワマリの千鳥足で全居留地大通狭しと濶歩し居つたがドン々柏子で巡羅中の支那警官へ突當り轉げて負傷したので自分の悪いのは棚に揚げて巡査に食つて掛るより致方なく日本警察署へ引渡し說諭の上返されたり

●馬山ホテルの開業　韓國新開港に付第一指を屈すべき馬山浦なるとは何人も異論なし灣内水深く入りたるは長崎港に似て上海岸廣くして高きは神戸に似たり黄白の船舶停泊する些の支障なし曾て露の建設せしもあとはり山陽丸は隔はに出入其他商船會社は一週一回の往復あり四月廿一日愛國地擴張の爲土地經賣の公告もあり京釜鐵道の三浪津より馬山浦へ通する鐵道期用も近きにあり然るに同地には從來旅宿の設備としては僅に三軒のみなり故に幾多の旅客をして困難の嘆を發せしめしとありしが此度大坂府の某有力家元露國人の家を借掛して旅館となし馬山ホテルと名け宿料も一層安直にして馬山紫榮の一機關とせられしとは實に時節柄宜しきを得たることゝ云ふべし

●幸座の淨瑠璃（今晩）左の如し
佐倉宗五郎鎌作切腹の段（寛昌）▲太功記十段目の口尼ケ崎の段（小三）▲未定（梅香）▲太功記十段目の切十次郎物語の段（小知榮）▲阿波の鳴戸八ツ目順禮子別の段（梅玉）▲大切壇の浦甲軍記阿古屋琴責の段（總掛合琴ノ瀬入）△注意琴は故の崎檢行之門弟鶴勾當鶴濱寛一相務む

料理の枝折

△豆腐料理　煮出汁、鹽、味淋、喰味より幸目の汁を鍋へ沸騰せ賽形に切つた豆腐を一個並べに投れて其上へおろしいもをかける豆腐の煮へるに從ひ鍋が泡立つて泡雪の樣になつた所を金杓子で椀へ盛ひ揉山葵、揉海苔、葱、蕃辛などの藥味を添へる△豆腐一つと玉子四個、煮出汁、醤油少々とを溶ぎ混せて胡麻油を引いた鐵鍋で焼き適宜に庖丁して椀へ盛り三葉菜及び淡味に煮た椎茸などを盛添へて葛餡をかけ摺山葵を添へる△山葵味噌　其儘食用ともなし又薬味噌として蕪蒸し風呂吹大根へ敷てる上よりかけても川ふ味のあまる味噌をおてすべし先づ味噌を擂鉢にてすり馬尾篩にて裏漉にして鍋へ入れ砂糖十貳匁みりん壹勺を加へて炭火にかけねり合せて煉つめ卸る時に山葵を洗ひて卸金にてすりおろしたるを庖丁のむねにてたゝきたるを入れ器にて能くまぜ鍋をおろして器へ取て置きしま置き皿へ盛り又は物へかけて出す

●休刊

明日は水曜日の翌日に付例に依て本紙は發行せず

讀者の領分



▲八重の潮路打ちのりて、歩みも心淋しき高麗の野に、松翠の色を作めて龍頭の、小糸の調べ玉糸の色消さ、はつねを聞きて寒の夜の、月の朧ろにひに未日をし行のびて戀し我れ小菊（長髪郎）▲松井座行く奴は面を見におくのだ其よ淨瑠璃を聞かんとする者は幸に行け（コウスルヤ）▲瀧野輔演君は此頃朝鮮每日子にヅヽかれて居るサゾ南演藏な恋とでげせう（北麗生）▲松井座の娘義太夫小糸一座の大人氣に引換へ幸座小富一座は不入氣なりとはお氣の毒さま（堂摺見奸雀）▲一風樣のアモ藝妓市子さんは姫御前のあられもない寢小便たれど專らの噂ですよ本當かな（郵便局員）▲釜山の旅館で何館か二番丁寧でせうか（新本旅館）▲むかしは一字千金の價値があつたが今は百字文が音聞の價格しかないとけ遺憾〳〵（一字生）▲我れの戀する菫の花は高麗の野にては見るとも叶はず（新詩人）▲あの節當港にて賣つて居る巻煙草リリー、チエリーの味が大變悪くなつたチト改善して貰びたい（好喫家）▲大邱に於て發行する朝鮮新聞と實業新聞との優劣如何（讀希望生）▲釜山に青年會あり、あれども其の活動せしを聞かず活動せざれば寧ろ之れ無きも同然なり會員たる者乞ふ奮起せよ（白衣青年）▲僕は昨日當所稚園の保育證書授與式に臨席して彼の花の如く野の如き清麗純白の兒童がアドケなき聲にて「君が代」を唱ひたるを聞て飛然天國に遊んで天使に閉繞せられたやうな愉快な感がして（羽衣生）▲僕は思ふ、恋愛は戀愛の化身なりと、誰かあれを否認する者ぞ（戀愛學士）▲商品陳列館の開館式餘興には是非共壯快なる劍舞をやつて貰ひたい（壯士）▲夫婦の間よ秘密があつたならば壹家破滅の基だ家庭の平和を保たんと欲せば宜しく夫婦間に秘密を除きて何事も互に打明けるがよい（十度子）▲西國者よ君の技量が果して事實ならば直接來談せよ開業以來未だ御客の衣類を盗まれたおとはないよ（改良湯主人）▲釜山は概して家賃が高いモ少し安くしたらば自然山釜發展上に至大の便益を來たすであろうが併し今の强欲なる家主に向つて家賃の低落を口說いたゞあるが馬の耳に念佛だから他に良方法を以て公共的長屋を建築したらよかろうと愚考する（新渡來生）

現銭 拾七割七歩
手形 拾七割八歩

瀛船釜山出帆廣告

長崎門司神戸行 ●日東丸 四月四日

●トンクス ●ヲハヨー號 仁川芝罘太沽牛莊行 四月二日 仁川鎭南浦行 三月三十日

荷客取扱所 同 ㊉大池回漕店

大阪商船株式會社 汽船釜山出帆廣告

木浦仁川鎭南浦行 ●安東丸 (三月廿九日 二月廿四日) ●天照丸 (四月二日 二月廿八日)

川鎭南浦行 ●宮嶋丸 (三月廿九日 二月廿四日) ●バイキング (三月卅日 二月廿五日)

門司行 ●日新号 (四月一日 二月廿七日) 但門司釜山間隔日往復航海

下關神戸大阪行 ●蒼龍丸 (三月廿九日 二月廿四日) ●義州丸 (三月廿九日 二月廿四日) ●勝川丸 (四月一日 二月廿七日) ●大山丸 (四月二日 二月廿八日) ●大禮丸 ●宮嶋丸 ●東丸 ●天照丸 (四月十三日 三月九日)

嚴原長崎博多下關神戸大阪行 ●手取川丸 (四月七日 午後十時出帆)

元山行 ●蒼龍號

沿岸線 ●瑞鷹丸 新浦 群山 鎭南浦 每週二回往復

大阪商船株式會社

韓國郵船株式會社 瀛船釜山出帆廣告

定期連絡汽船 金州丸 (若津代船) 三月卅一日 午後六時 嚴原唐津行 (九州鐵道ニ連絡ス) 井上回漕店方

荷客取扱店 國中商店 電話二〇番

八頭司船 釜山出帆廣告

●萬歲丸 三月三十日 木浦仁川行

●山陽丸 三月三十日 馬山浦行

但シ午后二時出帆 荷物ハ切午前九時

●馬山浦丸 二月 日 仁川行

八頭司船舶部

瀛商會 瀛船釜山出帆廣告

木浦仁川鎭南浦行 ●京畿丸 三月廿九日 二月廿四日

●慶尚號 月 日 元山直行

元山行 ●慶寶丸 仁川鎭南浦行 航海中

●泰盛号 陰陽 月 日

●正成丸 仁川群山間航海中

堀商會瀛船 釜山代理店 本町海岸郵便局前 山川回漕店

池田汽船 ●松前丸 陰陽 月 日

●幸光丸 仝仝 月 日 仁川直行

野村汽船 ●寧靜丸 仝仝 仁川芝罘 航海中

●貫效丸 陰陽 同

荷客元扱 釜山港本町通海岸郵便局前 山川回漕店 電話一七八番

大阪尼崎 瀛船釜山出帆廣告

●太湖丸 陽 四月五日 馬關大坂行

●神代丸 仝 三月三十日 仁川鎭南浦行

●第二崇徽丸 仝 四月三日 馬關神戸大坂行

●大有丸 仝 三月廿九日 仁川鎭南浦行

大坂絹川丸 瀛船出帆廣告 ●錦龍丸 三月 日 行 大池回漕店

瀛船釜山出帆廣告

●第八永田丸 陰陽 三月 日 二月 日 行

世昌洋行瀛船 門司神戸大阪行 ●ダクマル號 二月 日

仁川鎭南浦膠州灣行 ●スルベルグ號 三月廿九日

釜山運輸組瀛船 ●第四共同丸

沖永回漕店 (電話貳百貳拾七番)

●第四共同丸 ●第五永田丸 月 日

釜山運輸組 (電話百二十七番)

世昌洋行汽船出帆廣告

門司神戸大坂行 ●ダクマル 三月 日 午後五時出帆

仁川鎭南浦膠州灣行 ●スルヘルク 三月廿九日 午後一時出帆

世昌洋行汽船取扱店 ㋚齊藤回漕部

瀛船釜山出帆廣告

●防長丸 四月一日 下關神戸大坂行

●浦門丸 四月二日 元山行

荷客取扱店 三木回漕店 電話八三番

寫眞撮影 釜山全景各種撮影韓人風俗各種アリ 釜山辨天町 平井寫眞館

唐津石炭 辨天町一丁目 國安商店 電話一七一

板材木廉價販賣 其他石灰竹瓦 南濱海岸 島末商店

獸醫 富平町拾七番地 中尾祐作 電話四拾四番

磨搗米廉價販賣 富平町 岡本商店 (電話三拾一番)

東京そば 東庵

材木建具廉價販賣 富平町精米所側 平松商店

丁寧親切 南濱町六番地 柳井旅館

青物乾物砂糖麥粉 西町二丁目 遠藤商店 電話架設中

活版印刷 朝鮮語文活字あり 廉價迅速鮮明 釜山西町三丁目郵便局裏 立志社

清酒櫻正宗 櫻魂 西町三丁目 上西酒店 (電話 番)

勉强御下宿 南濱十八番地海岸通 伊豫屋

精白米廉價販賣 石炭米共檢查仕候 南濱町海岸通四ッ角 西原商店

歐米時計各種 附屬品 修繕 色々 電氣メッキ 金・銀・赤銅・ニッケル 鍍金 年度保險付 幸町一丁目 園田時計店 (電話二一〇番)

●卷煙草 ●刻煙草 ●銘茶 宇治銘茶園製 ●各種石鹼 ●齒磨類 ●麻裏草履

右卸小賣共大勉强 南濱小倉庵前 ㊔宇田商店

●おしろゐ化粧水 ●花札かるた才類 ●新形錢入莨入袋物 ●香水香油石鹼類

其他足袋麻裏雜貨小間物一切 諸品問屋 釜山西町三町 ㊇明治屋

㊂印醬油 鳳凰・龍・軍・ 釜山北濱通 水野巖商店

滋養牛肉ソップ (一合代貳錢) 陸軍御用釜山罐詰所共製品 南濱二十八番海岸通 平田秀吉

純良牛乳 富平町二拾四番地 配達迅速便利 稻尾牛乳店

●京東御料理 麥とろ あそひ 南濱海岸通り (電話二四四)

新古たゝみ製造賣買 並ニ表緣商 西町三丁目 丹原商店

●萬小間物類 ●並ニ石鹼足袋 ●下駄糸化粧品類 右ハ小賣共致候安價販賣 草梁通り 藤井商店

古着古道具刀劍古書畫金銀賣買並ニ質屋 其外何品ニテモ高價ニ申受ベク候 西町三丁目石川醫院西隣 鈴木商店

血を増し肉を肥し胃を健にする 蜂印葡萄酒 强壯的飲料は本品に如くものなし 韓國一手輸入元 釜山幸町二丁目 齊藤支店 (電話番號一四四)

各種時計保險附修繕並ニ附屬品 迅速叮嚀廉價ヲ主トス 釜山港西町三丁目一番地 嶋田旭賞堂

家屋は新築清潔 眺望は風光明媚 取扱は親切丁寧 旅館 京釜鐵道沿線 三浪津河岸 龜屋

雜貨品御用達 防水布其他雨具一式 洋服裁縫及販賣 空氣枕水枕製造 大日本小倉市京町三丁目 陸軍御用達 マルマ商會 釜山南濱通三十番戶 松尾儀平方 全商會出張所

株式會社第一銀行支店 (電話一番)

資本金壹千万圓 積立金一百七十万圓 明治六年設立

本店 東京 頭取 澁澤榮一

支店出張所 京城 元山 神戸 四日市 仁川 東京 兵庫 木浦 大阪 長崎 群山 鎭南浦 新義州 伏見 [illegible]

為替取組先 長崎 門司 [illegible]

諸預り金為替貸金其他銀行業務一般多少ニ不拘御便利御取扱可申候

調劑所 處方調劑ノ依賴ニ應ス 釜山本町 ㊉弓削靈藥舘

諸新聞大賣捌 大坂毎日新聞 (一ヶ月四十八錢) 萬朝報 (一ヶ月卅錢) 電報新聞 (一ヶ月廿五錢) 朝日新聞 (一ヶ月三十八錢)

右配達迅速仕候 幸町一丁目二拾三番地 山口新聞舖

御旅館 末廣 伊勢大州 釜山港南濱町支店 小野茂

新荷到着 務擴張

コールテン、シャツ類、和歌山特產モンパシャツ 西町なんめい通 十字屋本店

美濃燒、尾州燒、伊萬里燒、陶器類 西町なんめい通 十字屋第一支店

名古屋小間物、出雲燒、陶器、漆器、一閑張 釜山陳列館附屬賣品館 十字屋第二支店

襖立具類一切 西町なんめい通 十字屋第三支店

右新荷到着候ニ付卸小賣共大割引販賣

齒科專門 幸町南濱通上田商店前 和田野醫院ヨリ五軒目 共生醫院假治療所

京城泥峴一號地ニ滯在シテ契約起案民刑訴訟等汎ク法律事務ヲ取扱フ 東京辯護士會 辯護士 皆川廣濟

東京 大慈本舖 ツバメ印 香竄葡萄酒

賣捌所 草梁 大慈支店 釜山北濱 粟谷出張店 釜山本町 [illegible]店 土井

販賣品目 鐵網並建築用 諸金物類一切 亞鉛引平浪板 ロープ類各種 韓人向諸金物

元山港第三四 角野元山支店 釜山 角野商店 大邱南門外 角野大邱支店